



前南進路だより

R7・第15号 12月23日発行

1、併願校について

2学期も本日で終了となります。新年を迎える来月には、3年生は共通テスト、1・2年生はベネッセ記述模試が予定されており、各自が目標に向けて日々学習に取り組んでいると思います。そして、3年生は私立大の一般選抜や共通テスト利用入試の出願に向けた準備、2年生は模試における志望校の記入、1年生は文理選択を考慮した志望校の検討も随時行っています。特に、「第1志望校」以外の「第2・第3志望校」などの併願校を「なんとなく」決めることは、極力避けたいところです。なぜなら、併願によって志望校受験を有利に運ぶことができ、「第1志望校」への合格につながります。3年生は出願が間近に迫るなかで最終確認をする機会とし、併願校がまだ決まっていない1・2年生は参考にしてみてください。

(1) 併願校を決める条件 ※後悔しない! (螢雪時代11月号参照)

【行ける=現実】

【行きたい=理想】

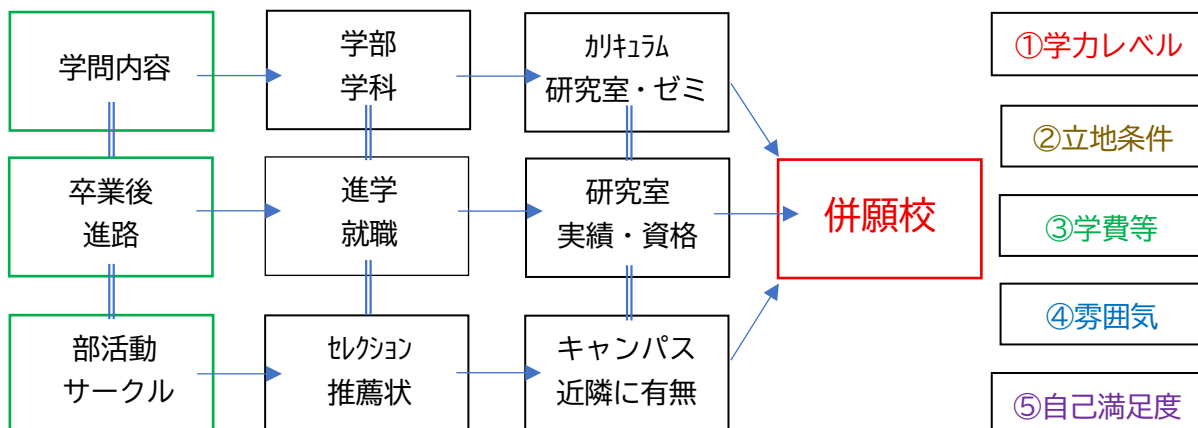
- 学力レベルが適している
- 通学可能な立地条件である
- 本命校受験に負担がない入試科目である
- 経済面で卒業可能な見通しが立っている



- 興味のある学問分野が学べる
- 理想の大学生活が叶えられそう
- 大学卒業後の将来像が描ける
- 大学に魅力を感じる

「なぜ併願を考える必要があるのか」・「第1志望校が不合格だったら、本当に併願校に進学するのか」という問いに対して、単に「試験に慣れたいから」だけであれば、上記の条件を満たす大学を選ばなくても問題はないはずです。多くの受験生は、「第1志望校に合格したい」という気持ちで学習をしていると思われます。しかし、入試の合否結果により、その願いが叶わない受験生は多数存在します。少しでも併願校に進学する可能性があるなら、後悔しないためにも「**大学に行く目的**」を果たせる大学を選ぶ必要があります。**絶対に外せない条件・妥協してもいい点を整理して、大学4年間の貴重な時間と、何百万円というお金をかけてもいいと思える併願校**を探しておくことが大切です。

(2) 併願先の大学を探す → ①～⑤のうち、どれを優先するか?

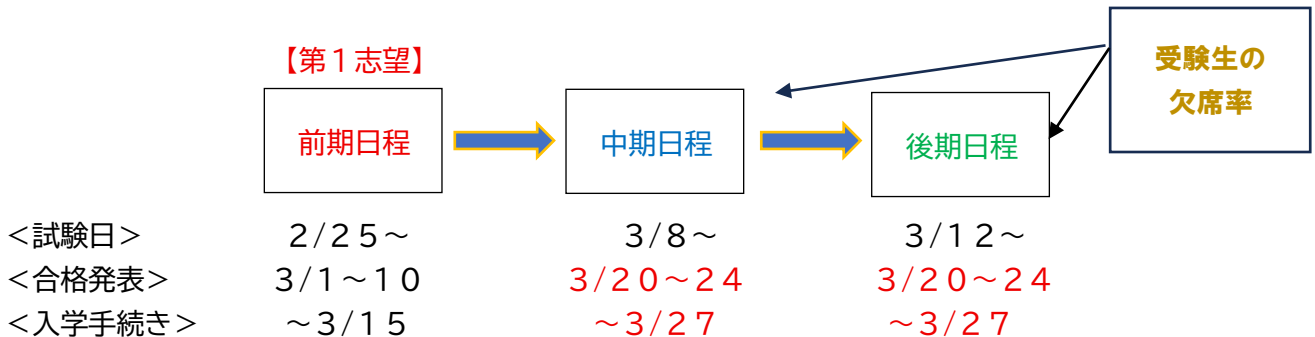


(3) 自分に合った入試方式を選ぶ

① 国公立大

～日程～

- ・第1志望は、必ず前期日程で受験 → 合格・入学手続きを行うと、中期・後期日程の試験を受けても合格にならない
- ・中期日程と後期日程は、合格発表と手続き締切日がそれぞれ重なる → 併願可



～受験科目～

- ・第1志望校と同じ科目で受験できる大学・学部を併願 → 対策の負担が軽減できる
- ・選択可能な科目や、国語は古文・漢文を含むか → 出題範囲を確認

② 私立大

～日程～

1) 試験日自由選択制 例：立教大学（経済） ※2/6・2/9（全学部日程）

試験日	国語	外国語	選択	満点
2/6	現・古 (150点)	外検・共テ (150点)	地歴・数学 (100点)	400点 (3教科)
2/8	現・古 (150点)	外検・共テ (150点)	地歴のみ (100点)	400点 (3教科)
2/9	現・古 (150点)	外検・共テ (150点)	地歴・数学 (100点)	400点 (3教科)
2/12	現・古 (150点)	外検・共テ (150点)	地歴・公民 (100点)	400点 (3教科)
2/13	現・古 (150点)	外検・共テ (150点)	地歴のみ (100点)	400点 (3教科)

2) 全学部日程

→ 個別日程（学部別に実施）とは別に、学内の全学部（あるいは一部の学部）が同日に共通問題で一斉に試験を行う（一度の試験で複数の学部・学科を併願できる場合もあり）

例：法政大学（経済学部・経済/国際経済/現代ビジネス学科） ※2025年度入試の結果

試験日	日程	学科	必須	選択	合格得点率
2/5	I日程（統一）	全	英 (150)	国・数 (100)	約 58%
2/5	英語外部試験利用	国際経済	外検 (準1級)	国・数 (100)	65.6%
2/9	A方式 (I日程)	国際経済 現代ビジ	国 (100) 英 (150)	地歴・公民・数 (100)	約 61%
2/12	A方式 (II日程)	経済			約 68%
1/17・18	【共テ】B方式	全	3教科3科目 (350)		約 78%
1/17・18	【共テ】C方式	全	6教科7科目 (850)		経済：約 75% 国際：約 71% 現代：約 70%

～受験料～

- 1) **共通テスト利用入試** → 共テの成績だけで私立大が受験可。「共テ利用」方式と、別途独自試験等も課される「共テ併用」方式の2種。受験料は個別・全学部日程の半額程度と、割安な場合が多い
- 2) **学内併願割引** → 複数の学科を併願、複数日程受験する場合に、受験料を割引する制度

～受験科目～

- 1) **外部検定利用入試** → 英検などの資格試験の級位・スコアを出願資格とし、得点に換算・加算。
- 2) **傾斜配点方式** → 課される科目間の配点が均等ではないもの。同じ学部・学科でも、配点の異なる複数の方式を設けている場合が多い。

～受験場所～

- 1) **学外試験場** → 大学所在地以外の全国主要都市等に設けられた特設会場（地方会場）で受験
- 2) **共通テスト利用入試** → 共テの成績で私立大を受験できるため、独自試験を受けに行く時間や手間・費用等を削減

(4) 併願校を決める際の注意点

 = 挑戦校
 = 実力相応校
 = 合格確保校



パターン1

十字型

実力相応校中心に手堅く受験する一般的なパターン。これに加え、共テ利用入試で合格確保校をもう1校出願しておく安心。



パターン2

ピラミッド型

安全志向なら、このパターンがオススメ。合格確保校に多めに出席して自信をつけつつ、実力相応校、目標校の合格も狙う。



パターン3

逆三角型

退路を断って上を目指すならこのパターン。共テ利用入試で最低限の合格を確保しておいて、目標校の対策に注力する作戦。

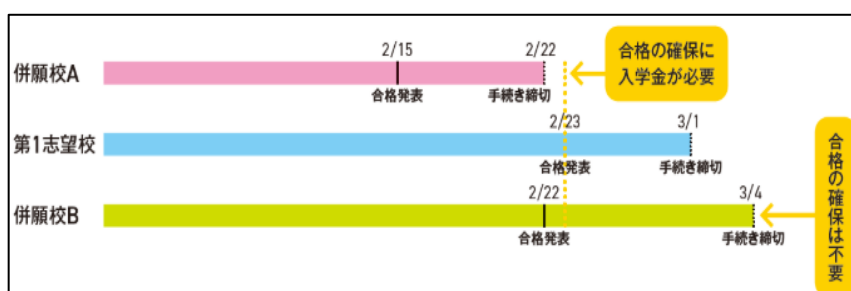
パターン1 国公立大のみ併願した場合				
	国立A大学 (前期日程)	国立B大学 (後期日程)	共通テスト	
受験料	1.7万円	1.7万円	1.8万円	= 33.2万円
入学金	28万円			

パターン2 私立大のみ併願した場合				
	私立C大学 (個別試験)	私立D大学 (個別試験)	私立E大学 (共テ利用方式)	共通テスト
受験料	3.5万円	3.5万円	1.8万円	1.8万円
入学金	30万円			
				= 40.6万円

パターン3 国公立大と私立大を併願した場合				
	国立A大学 (前期日程)	国立B大学 (後期日程)	私立C大学 (個別試験)	共通テスト
受験料	1.7万円	1.7万円	3.5万円	1.8万円
入学金	28万円		30万円	
				= 66.7万円

国公立大が不合格だった場合に備え、私立大に入学金を納入した場合

入試方式が決まると、(左図)「併願校を何校受験するか」・「どのような型で出願するか」の検討が必要となります。ただ、多くの大学を受験すると、(上図)のように費用が多くかかります(交通費・宿泊費も負担)。また、(下図)のように【併願校A】に合格しても、期限内に入学手続きを行わないと、**合格が無効**になってしまいます。その後、【第1志望校】に合格したことで【A】への**入学を辞退**した時には、**支払った入学金は返還されない場合がほとんどです**。国公立大一般選抜の合格発表日は3月上旬以降のため、私立大の手続き締切時点では合否



が不明な場合が多いため、手続き締切日が遅い私立大を選ぶことや、どの併願校の入学手続きを行うかについて、保護者の方と相談してあらかじめ決めておくことが大切です。